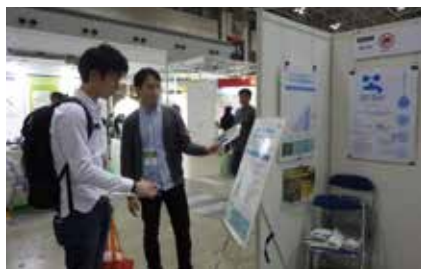


使い捨て飲料容器の削減および水の域産域消の推進に向けた各主体の連携構築

イベントの 延べ参加者数	350 人
イベント参加者 の満足度	95%
活動の全体目標 に対する達成度	85%



エコプロダクツ 2015 で来場者に説明

◆成果と工夫したポイント

●成果

- ・6 地域の先進事例の調査から、効果的な取組みの鍵を抽出した。
- ・イベント出展・開催で、約 350 人に行動変化、活動への参加を呼びかけた。
- ・“脱使い捨て”と水の域産域消を広げるための連携の基盤を構築した。

●工夫

魅力的な事例を収集し、ポジティブな社会提案を行うことで、人々の行動変化と参加の増加を促した。

課題

ペットボトルなどの使い捨て容器に入った飲料の消費の増加は、資源消費量、CO₂ 排出量等の環境負荷の増加につながっており、水道水や地域の水資源への関心は低い。

目標

地域や大学等において、使い捨て容器に入った飲料利用から、水道水利用へシフトする行動を広げるために、自治体、水道局、大学、市民団体等の各主体の連携の基盤を構築する。

活動内容

使い捨て容器に入った飲料の利用を減らし、水道水の飲用を推進している自治体や、大学の先進事例（生駒市、京都市、熊本市、東京都、昭島市、武蔵野市）について、現地調査を行った。普及啓発用のリーフレットを制作し、エコプロダクツ 2015 で配布を開始、ウェブサイトを利用しやすく改訂した。2 月に「水 Do! フォーラム 2016」を開催し、各地の取組みの経験を共有し、“脱使い捨て”と水の域産域消を推進させる鍵を議論した。



「水 Do! フォーラム 2016」
のパネル討論

達成できなかったこと

大学については取組み事例が少なく、継続性も課題であるため、ネットワーク形成よりも、情報共有の基盤づくりに活動内容を修正した。

今後の展望

東京オリンピックが開催される 2020 年に、使い捨て容器に頼らない社会が実現することをめざし活動する。